

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2017 Vol.32

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL ▶048-798-1751 (代)
 TEL ▶0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX ▶048-798-0075
 URL ▶http://www.matsunaga.gr.jp

感動創造建設会社

株式会社 松永建設

祝

表彰4冠!

国土交通省

日建設計(株)様



「企業は人なり」

私たちは感動を創造し続けます!

松永建設はこの7月、相次いで優良工事表彰を受賞いたしました。建設業の未来を担う若手の育成や、働き方改革に資する表彰から、災害援助を自治体より感謝されたものまで、内容は多岐にわたりますが、社是である「企業は人なり」が実を結んだものばかりでした。

この7月に相次いで松永建設は、優良な工事等に与えられる表彰を受賞しました。表彰の対象となったのは4現場。工事種や表彰内容はさまざまに異なりますが、日々の努力が認められ、讃えられるということは大変誇らしいものです。ますますの研鑽を胸に刻む、非常に喜ばしい夏となりました。

まず、土木2現場が国土交通省より受賞したのは、「担い手確保・育成貢献工事表彰」です。利根川の堤防強化工事となる「H27 大越堤防強化(下)外工事」、荒川の築堤工事となる「H27 荒川川越市古谷本郷上築堤工事」に対して、それぞれ贈られました。

時代の変容とともに、わが国の労働環境や労務体制などが大きく見直されつつある今、ご存知の通り「働き方改革」は国をあげての急務となっています。中でも、若年層の労働人口が減少の一途をたどっている建設業においては、待ったな

しの状況。皆さまも耳にされたことがあるのではないのでしょうか?

そんな中、今一度、若者たちにもづくりの大切さや面白味を知ってもらったり、働く環境を良くしたりすることで、未来の建設業従事者を積極的に育てていこうという気運や取り組みは欠かせません。それが形になったものが「担い手確保・育成貢献工事表彰」だといっても過言ではないでしょう。

人材育成に関しては、学生のインターンシップの受け入れをはじめ、小学校の児童たち対象に大好きな「働くクルマ」(建設用機械)の試乗体験会を催し、ものづくりの一端に触れてもらったりもしました。また、働きやすい環境作りに関しては、週休二日制の導入が大きな目玉となりました。こうしたさまざまな創意工夫と施策が評価され、結実したのが、当該2現場の表彰だったのです。

そして、3つ目の表彰となったのは、

「タムロンキッズ保育園 新築工事」に対して、設計監理会社である株式会社日建設計様より贈られた優秀工事表彰です。一つとして同じ形・大きさの窓がないような、一風変わった(そして言い換えれば施工の難しい)建物の工事を、優れた働きによって完成させたことを評価していただきました。

4つ目の表彰現場は「徳力調節池整備工事(H27)」。こちらはなんと、豪雨による洪水の際に弊社社員が救援活動を行ったこと、その後、待望の洪水対策の調節池が完成したこと、その双方に対す

る感謝状を地域住民の方々からいただいたという、大変うれしいニュースです。

「受賞は社員の努力の賜物です。お客様が求めること・望むことを適確に読み取ることができて初めて、期待に応えることができ、感動も差し上げられる。真摯に、実直に『お客様ファースト』を成し遂げたという点で、今回の受賞は、人柄や人間性の勝利だと思っています」。松永大祐社長はこう総括しました。

各表彰に関する詳しい内容は2面、3面と続きます。どうぞご覧ください。



▲表彰状を囲んで。後列左より高橋寛臣グループリーダー(建築部)、鹿山祐治主任(土木部)、松永大祐社長、田中吉朗課長(土木部)、鎌木貴仁社員(土木部)、前列左より三浦政則統括グループリーダー(土木部)、塙和博グループリーダー(土木部)

「建設業担い手確保・育成貢献工事及び優秀技術者」表彰

働き方改革へ、着実な一歩！

国土交通省より H27大越堤防強化(下)外工事

加須市大越地区の利根川堤防を強化した本工事は、1面でもお伝えした通り、建設業の明日を担う人材の確保や育成に大きく寄与したことが評価され、表彰を受賞しました。目下最大の取り組みとなったのは、週休二日制の導入です。天候などの自然条件に影響を受けやすい建設業においては、日給制や日給月給制という働き方がまだまだ多いのが実態。勤務日数がダイレクトに収入を左右する世界です。しかし、それでは昨今の潮流とは合わず、若年層が「就きたい」と感じる職種とはなり得ません。「魅力ある労働環境」へと脱皮を図るために、週休二日制にチャレンジしたのが本工事です。

とはいえ「言うは易し、行うは難し」を痛感したと、現場所長を務めた田中課長は振り返ります。「渇水期にし



▲作業員用とは別に、天端サイクリングロードにも女性用トイレを設置して一般開放し、近隣住民に喜ばれた。仮設にもかかわらず洋式で清潔・快適

か施工できない河川工事では、実質の工期は表向きよりも短いのが常。その上さらに週休二日制を導入すると、かなり実働日数が削られることとなります。それが響いて、厳しい工程を余儀なくされました」。

苦労しながらもそれを成し遂げたのは、作業の効率化という工夫のおかげでした。工事用車輛の動線を複線化し、アクセスを良くしたり、協力会社と日々綿密な工程調整を行い、かつ周知徹底を図り、それぞれの作業班が毎日朝からフル稼働できるような配慮も欠かしませんでした。また、後述しますが、最新テクノロジーを活用する「建設 ICT」も、効率化の大きな一助となりました。

気持ちよく働ける環境作りの一環として、女性専用トイレを設置したことも好評でした。「トイレ内にどんな備品を用意するかは、弊社の女性社員のアドバイスを受けたので万全でした。ガードマンやダンプカーの運転手などの動きにずいぶん女性が進出しているの、大いに喜ばれましたね。逆に言えば、いかにこれまで女性が不便さを我慢して働いていたかも実感し、無頓着だった自分を大いに反省しました」と田中課長。

ほかにインターンシップの受け入れ



▲表彰現場の加須市大越の利根川堤防。盛り土をし、堤防幅を太らせる強化工事を行った



土木部 田中吉朗課長
土木部 三浦政則 統括グループリーダー

やささまざまな取り組みが功を奏し、結実した受賞。三浦統括グループリーダーはこんなふうにも労をねぎらいました。「特に週休二日制の導入には言い知れぬ苦労があったはずで、頑張りを讃えたいですね。一朝一夕で環境が劇的に変わるわけではありませんが、貴重な第一歩を踏み出したことを誇りに思っています」。



▲工事を中断して協力した、近隣小学校のサケの放流行事にて。建機の試乗体験で、未来の担い手候補にアピール！



▲労働環境の改善にもつながる建設 ICT(※後述)の意義や実際を加須市職員らに講習

創意と工夫で挑んだ難工事

国土交通省より H27 荒川川越市古谷本郷上築堤工事

「細長くて狭い、国道と鉄道にはさまれて逃げ場がないなど、なかなか難渋する工事でした」と、鹿山主任が振り返るのは、2つ目の表彰現場、荒川の川越市流域で施工された築堤工事です。工事車輛の動線が非常に限られた中で、いかにスムーズに施工するか。ズバリ、「頭を使うことを求められた」工事だったそう。事前計画を練りに練って動線を工夫し、また実際の現場では蓄積されたノウハウを駆使し、安全第一で乗り切りました。

上の利根川現場と同様に、当現場も、



▲インターンの受け入れも、担い手の育成・確保において大事な取り組み。女子大生インターンでもバックホウを操作できるのは、建設 ICTのおかげ

表彰で評価された創意工夫の一つにトイレの設置がありました。こちらは女性専用ではなく、現場特性を考えた移動式トイレです。「1 km 近くに及ぶ細長い現場を、端から順に施工していくため、トイレの固定はかえって不便。そこで閃いたのが移動式でした。洋式水洗に手洗いも付いた、仮設にしてはなかなかのもので、反応は上々でした」と鹿山主任。

深刻な人手不足を補うために、建設業界全体で推進している「i-Construction(※ICT = 情報通信技術などを用いた作業効率改革・技術改革)」という施策も、工事をスムーズに進めるのに大いに役立ちました。また、「若手技術者や市の土木職員を対象に、その建設 ICT の勉強会を開催したことも、大きなポイントになりました」と堀グループリーダー。

建設 ICT は、測量・設計から施工・管理まで、建設の全工程を、GPS や 3次元データなどの最新の情報通信技術を駆使して支えるもので、特定の職能者でなくても工事が進められるように開発されています。作業の効率化で人手不足を打開し、ひいては労働環境の整備へとつ



▲川越市古谷本郷に築かれた荒川の堤防。旧堤防の上に、さらに高く築堤する工事だった

なげる重要な技術。勉強会にはメーカー社も招いて、会の一層の充実を図ったといい、さすが、受賞者らしい配慮が光りました。



▼軽トラックの荷台に据え付けられた移動式トイレ。作業の進捗と共に現場を移動する。「快適」は働きやすさの大事なポイント



土木部 鹿山祐治主任
土木部 堀和博グループリーダー



表彰3 夢を盛り込んだ図面を形に

日建設計(株)様より タムロンキッズ保育園

建築部の高橋グループリーダーが受賞したのは、日建設計株式会社様による優秀工事表彰です。日建設計は建築設計事務所のリーディングカンパニー。年間で数百棟にも及ぶプロジェクトを手がけ、いずれも一流のものばかりです。中でもとりわけ優れた工事に対して毎年表彰が贈られており、高橋グループリーダーの手がけた「タムロンキッズ保育園」が見事、栄誉を射止めました。



▲日建設計様主催の授与式にて。建築部の高橋寛臣グループリーダーと松永社長

タムロンキッズ保育園は、株式会社タムロン様が開設した企業内保育園。以前本紙でもご紹介しました。三日月型に大きくカーブを描き、また左端から右端へ向けて屋根がグーッと高くなっていくユニークな建物は、タムロン様の社業であるレンズと、『ドラえもん』のガリバートンネルをイメージさせる、夢のある設計図面をもとに施工されました。

一つとして同じ形状の窓がない点に象徴されるように、非常に高い技術力を要求される工事でした。また、諸事情から超の付く短期決戦工事を余儀なくされたことも、施工の難しさに拍車をかけました。しかし、「所長である自分がかきめたら終わり。現場に間に合わないとい



▲タムロンキッズ保育園の外観。奥から手前に向けて屋根が徐々に高くなる形状は、まさにガリバートンネル!

うムードが蔓延してまいります。『絶対にやり遂げる』ということだけを念じて、死力を尽くしました」と高橋グループリーダー。強い意志と執念で勝ち取った表彰でした。



表彰4 住民からの心尽くしの感謝状

徳力調節池整備工事 (H27)

この7月、さいたま市岩槻区に完成した徳力調節池にまつわる表彰は、なんとも心温まるものでした。というのもこちらは、住民の方々が自治会の総意として贈って下さった感謝状だったからです。

徳力は昔から地盤が良くないことで知

られており、床上床下浸水の被害もしばしば。もちろん治水工事は進められていましたが、そんな折の2015年秋。台風による大雨が、またもや徳力を襲いました。そのときに救援隊として奮闘したのが弊社の社員でした。

特に180cmを超える長身の鎗木社員は、獅子奮迅の働き。ゴム胴長を着用し、最も水量が多かったときは胸まで水に浸かりながら、住民を乗せたゴムボートを引っぱって外出や出勤の手助けをしたり、買い出しに奔走したり。「自画自賛になりますが、あの瞬間はまさにヒーローでした(笑)。土木工事は住民の安全を手引きする重要なもの。献身する意義を感じました」と鎗木社員。その後さらに2年をかけて完成したこの調節池は、7年越しの工事が実った、住民念願の治水事業だったというわけです。

完成式典では、自治会の方々が手作りで用意して下さいました横断幕が会場を飾り、また、ご好意で慰労会も開いて下さいました。弊社も長年土木工事に携わっ



▲完成した徳力調節池。雨水を一時的に貯めて浸水を防ぐ、大事な治水事業



土木部 鎗木貴仁社員

◀自治会でゴムボートを備えていることに、浸水被害の常態化と住民の苦悩がうかがえる。鎗木社員は、多いときには住民8人を乗せて引っぱった



◀心尽くしのおもてなしをして下さった西徳力自治会



てきましたが、これほどの歓待は初めて。建設会社冥利に尽きる出来事となりました!

女性目線、女性クオリティを実践 「松女パトロールチーム」始動!

このたび松永建設では「松女パトロールチーム」を発足、女性社員がメンバーに加わった現場の巡回パトロールをスタートさせました。当プロジェクトは、より女性が活躍できる会社へと、弊社も刷新しようという目的のもとに始動したものの。ひいては働き方改革へとつなげたい意気込みです。ゆくゆくは女性の現場監督が弊社にも誕生するくらいの進化を期していますが、座して待っていても時は訪れません。まずは一步を踏み出すこと、そう考えてスタートしたのが松女パトロールチームです。

現場パトロールは、施工現場の安全態

勢や衛生環境などを第三者の目で監視するもの。安全衛生を高い水準で維持するために必須の活動で、これまでも定期的・継続的に実施してきました。しかし、女性ならではの細やかな目線や配慮、あるいは現場になじみがない立場だからこそ「正直な、忌憚のない意見」もまた、今や欠かせません。

8月某日、初回となるパトロールを女性2名を含む一行で実施したところ…早速、目に見える効果が現れました。いつも以上に念入りの清掃・整頓でパトロール隊を迎え、また通り一遍でない、噛み砕いた表現での説明を心がける現場。対

▶ユニフォームを作り、意気込みを早速形にした松女パトロールチーム。土木現場、建築現場、営業現場を交代制で巡回する



する女性陣も、初めて現場を目にして、「いつもこんなに厳しい状況や気象の下でみんな頑張っているのか」という気づき。お互いがお互いにやさしくなれるという変化が生まれました。もちろん、これは副次的な効果です。しかし、この良

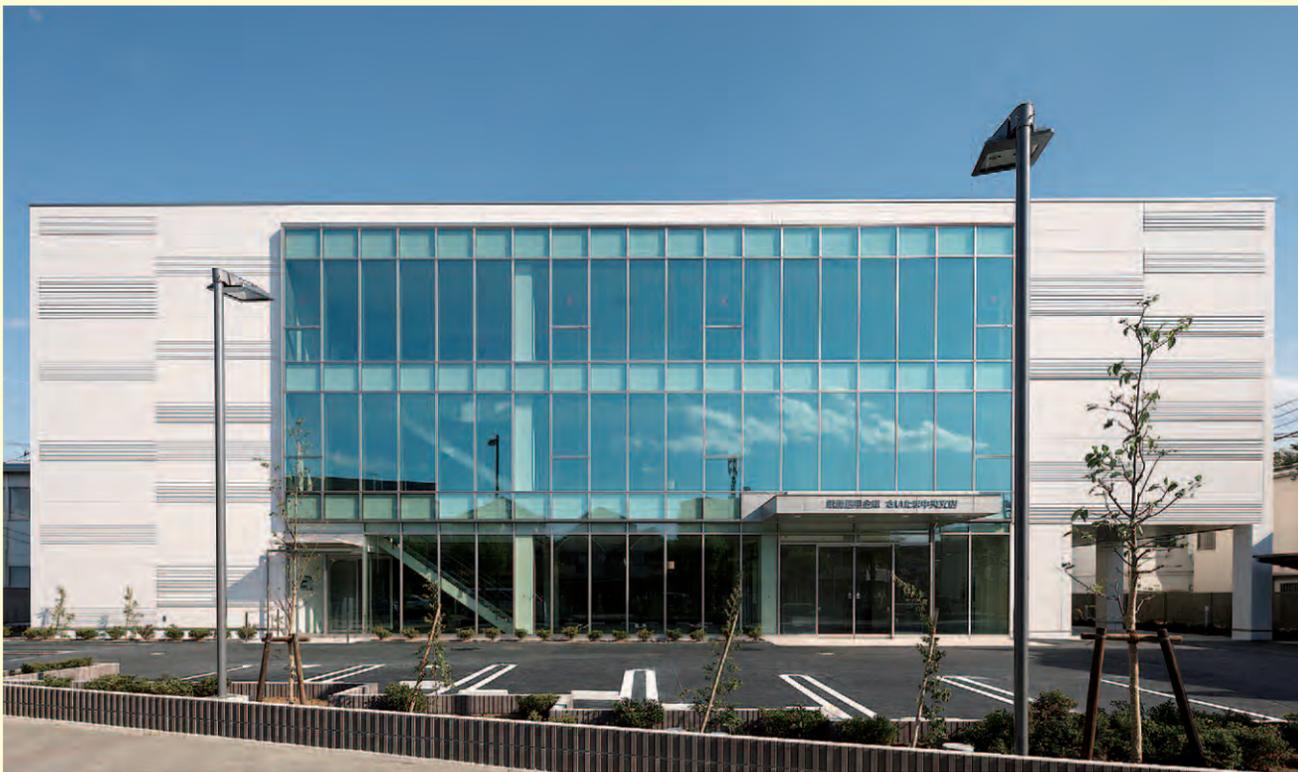
い変化を積み上げていくことは、弊社にとってプラスになりこそすれ、マイナスにはなりません。

より女性が働きやすく、そしてより全員が働きやすい職場へ。松永建設は貴重な一歩を踏み出しました。

お客様の
ご紹介

地域の振興のために、歩み続けて66年。県央・東部の旗艦店がオープン！

飯能信用金庫『さいたま中央支店』様



▲さいたま市中央区に県央・東部旗艦店として完成。経営セミナーなども積極的に開催し、地域や顧客と共に成長する金融機関を目指す

JR北与野駅から徒歩5分、さいたま新都心にほど近いところに、7月25日、飯能信用金庫様の「さいたま中央支店」がオープンしました。44番目の出店だという当支店は、県西部を地盤として発展してきた飯能信金様にとって、県央・東部の旗艦店となる存在。気合いの入った華々しいオープンとなりました。

白亜と大胆なガラス張りの壁が陽に映える美しい外観をはじめ、建物の内外すべてがスタイリッシュで高級感にあふれています。「テーマは、従来イメージからの脱却でした。周辺住民の方々からは『一体何が建つ？ 研究所？ 病院？』という声も上がったほどなので、狙いは成功ですね」と笑顔で教えてくださいましたのは、支店長の松下寿夫様。さいたま市中央区は県経済の要。企業が多数集まり、貸出需要が見込めるだけに、地域柄に合わせたスマートな見映えに重きを置きました。実際の営業形態でも、中小企業診断士の資格を持つ職員を厚く配置し、法人営業を主力とするそうです。

「ATMや窓口、金庫室があるだけでも、通常のオフィスビルと比べて特殊だということに、3階には顧客を対象とした経営セミナー等が開けるような

造りにしていただいたので、施工はさぞ難儀だったでしょう。特にその3階は変更が相次いだにもかかわらず、松永さんには根気強く付き合ってください、本当に助かりました。」(松下氏)

設計事務所を通さず、弊社が企画・設計から施工までを一環して請け負う「設計施工」方式を今回とったことは、迅速な対応に大きな効力を発揮しました。設計事務所とタッグを組む通常の方式だと、間取りなどの大きな変更が出た場合、再び設計やコストの再計算へ立ち戻ることになり、時間のロスは否めません。うっかりすると、数週間、工事を進められないことも…。その点、設計施工方式はお客様の意図をダイレクトに反映させやすく、工期・コスト共に圧縮できる傾向が強いのです。

「これも設計施工方式の利点かと思うのですが、建物のすみずみまで配慮が行き渡っていた点もうれしかったですね。たとえば…」と、松下様が示したのは幅木。壁が床と接する部分に、ぐるりと貼り巡らされる意匠です。その幅木がステンレス製で、建物全体のスタイリッシュな雰囲気と調和が図られていたことは、「うれしい驚きでした」と松下様。また次長の後藤秀之様も、「職員が使う裏階段までが絨毯敷。



飯能信用金庫 さいたま中央支店 支店長 松下寿夫様



飯能信用金庫 さいたま中央支店 次長 後藤秀之様



◀▼地域に馴染むため、オープン前から営業活動に勤しんだという職員の皆様。「商品でなく、笑顔売り込んでいっしょい」という松下支店長の言葉を、皆様、この笑顔で実行されたのだろう。オープン時には3日間で千人以上の地域住民が詰めかけ、大いに賑わったそう



これには感動しました」。設計を手がけた弊社の沖山主任によれば、「職員の皆様へのおもてなしの気持ちが一つ。また、忙しい皆様の足音が、お客様のいる表側に漏れないようにという意図もありました」とのこと。松下様も後藤様も声をそろえて、「こちらの期待値を超えたリターンがある。さすが、『感動創造』を旨とする松永さんらしい心配りですね」と言って下さいました。誠に恐悦至極です。

さいたま中央支店のオープンと共に、新たな一歩を踏み出された飯能信用金庫様。「この街のために全力疾走」という素敵なキャッチフレーズの通り、地域の活性化のために、生き生きと走り回る皆様の笑顔が浮かびます。ますますのご発展をお祈りします。

▶ブルーの看板が目に見え、交通量の多い交差点に立地する、新支店のスタイリッシュな建物と看板は、地域のランドマークになるはず



現場から

「ランニングコストまでも考慮しながら設計することが課題でした。外部の塗装やガラスなど、さまざまなものを検討させて頂き提案させていただきました。内装も含め、最終的にすべてお客様に満足していただけるものができ上がり、喜ばしい限りです」(沖山)



営業企画部 沖山 廉主任



建築部 沼野賢太係長

現場から

「お客様が運営上で支障をきたさないことを第一に考え、綿密な打ち合わせや、協力会社との連携を欠かさないようにしました。仕上げ工事の現場に足を運んでいただいて、ご要望に対応できるよう配慮したことを、とても喜んでいただけたのは何よりです」(沼野)

お客様の
ご紹介

分譲物件に負けないグレード感を追求、資産価値を高めた賃貸マンション

『プレシャス日本橋浜町』ほくしん株式会社様



ほくしん株式会社
代表取締役 蒲生幹雄様



ほくしん株式会社
営業部部长 前島 誓様



◀▲最寄りの地下鉄駅から徒歩4分という超の付く好立地。それだけに同業他社との競争も激しい。その中で当物件は、堂々たる広いエントランスが存在感を放っている



▲内装や設備でもグレードアップを図り、分譲に匹敵するクオリティを確保。上層階に6戸ある1LDKに至っては、ファミリー層レベルの充実した設備を有する



この夏、東京都心の一等地に誕生した「プレシャス日本橋浜町」。不動産の売買や賃貸仲介・管理などを手広く手がけているほくしん株式会社様が、弊社の「AB オービット」仕様で建設した、RC造・地上10階建の賃貸マンションです。「当社は鳥取に本拠を構えておりましてね。鳥取はともかく、東京ではこれまで中古物件で商いをしていたのですが、日本橋浜町というまたとないロケーションの土地が手に入ったので、これはもう建てるしかないぞと。待望の自社新築物件となりました」。そう言って、代表取締役の蒲生幹雄様は顔をほころばせます。

とはいえ、そこは高層マンションがひしめく土地柄。「両隣はもちろん、

前を見ても後ろを見ても、どれもマンション（笑）。しかも一等地ですから、当然ながら賃貸のみならず、分譲マンションも競争相手です。松永建設さんには『ぜひ、勝てるものを。入居者の心に響くものを』とお願いしました」と語るのは、建設の指揮をとった営業部長の前島 誓様です。

弊社のことは、AB オービットの発想や採算性の良さを気に入って選んでくださいました。無駄を省き、部材を効率的に使うことでコストを抑えるAB オービットは、シビアな賃貸経営において大きな利点になると判断されたそうです。「標準仕様があのコストでできるならば、費用を上乗せしてグレードアップを図れば、きっと一等地で

も勝負できる物件が建つはず」。そんな勝算を前島部長は得たと言います。

そして竣工した物件は1Kが18戸に、1LDKが6戸。広々とした瀟洒なエントランスを有する建物が完成しました。前島部長は「エントランスは建物の顔。いい物件には相応の顔が欠かせません。とにかくその点においては、いろいろとわがまを言わせてもらいました。そんなときに松永さんから、『土地面積から勘案すれば、建物の耐力は（6本柱でなく）4本柱で十分にいけます』という提案をもらったことは非常に有意義でした」。開口部が広くとれる4本柱構造だからこそ、重厚感・高級感漂うエントランスは実現しました。

竣工早々に開かれた内覧会では、評判も上々。実際にエントランスの雰囲気

から安心感を感じ、入居を即決した方も多かったとか。早々に満室となったことは何よりでした。

「同業者に分譲並みのハイクオリティだと褒められたのは、とても誇らしかったですね。建物のグレードが高いということは、即ち資産価値も高いということ。建物で商いをする者にとっては、これ以上ない財産です。いい投資をしたと満足しています。良い土地が見つかったら、また松永建設さんをお願いしたいね」。蒲生様は、そんなうれしいお言葉もいただきました。

東京支店のオープン後、順調に都内での施工数を伸ばしている弊社ですが、プレシャス日本橋浜町は、いわゆる都心での記念すべき施工第一号。素晴らしい工事をさせていただき、感謝の念に堪えません。



営業企画部 徳弘正輝グループリーダー
東京支店 藤田政也社員
建築部 斉藤 将社員

現場から

「今回の施工は都内での狭小地高層案件、そしてラーメン構造という、自分にとっての『初』が重なった現場。ほくしん様からは忠言もいろいろと頂戴し、大変勉強になりました。東京支店特有の横のつながりの強さ、バックアップに助けられた現場でした」（斉藤）

海外の優秀な人材をわが社へ！ ベトナム人新卒の採用プロジェクトが始動

グローバル化の潮流が進む昨今、去る9月から弊社は、グローバル人材の採用計画をスタートさせました。手始めとして、まずは本年4月より、ベトナムからの技術実習生6名を受け入れ、すでに各現場で活躍してもらっています。彼らは母国からの国費留学生のような立場で、研修後は帰国、即戦

力として現場のリーダーとなっていくことが期待されます。

そして、いよいよ来年度からは、本格的にベトナム人の新卒者を社員として採用する動きが進んでいます。ベトナムはご存知の通り、東南アジアで現在最も開発・発展の著しい国。インフラの整備など、「先進への国づくり」が急ピッチで進められています。日本で実力をつけたい、最先端の技術を学びたいという、向学心にあふれる若者を受け入れることで、弊社にとっていい刺激、いい戦力となることを期しての採用です。

過日、弊社の社員がベトナムの首都ハノイに飛び、

ハノイ土木大学にて会社説明会を開催。入社を希望する37名の学生と面談を行ってきました。

ハノイ土木大学は、土木と建築の分野においてはベトナム最高峰の学び舎。実際に面談をした37名は、いずれも、海外で活躍したい、自分の功績を後世に残したいなど、しっかりと夢を抱いている学生ばかりでした。

2日間にわたる面談で、最終的には5名を内定に選出。来年4月から共に働いてもらうことになりました。その力を存分に松永建設で発揮し、未来と一緒に創っていくことができたらと願っています。応援よろしくお願いたします。



▲内定者5名(前列)と記念撮影。日本でもその笑顔の輝きを絶やさずに、ぜひ頑張ってください

▶会社説明会の後に行われた面談シーンより



◀ハノイ土木大学。土木・建築系を志望するトップクラスの学生が学ぶ



▲この4月から現場で活躍している、ベトナム人技術実習生6名(前列)。みな向学心が強く、吸収が速い

「岩槻まつり」にて元気に開催！ 松永建設グループサマーフェス

去る8月20日(日)、『人形のまち 岩槻まつり』において、恒例の松永建設グループサマーフェス「めんそーれ岩槻」を開催しました。今年は琉球舞団「昇龍祭太鼓」を招いて、沖縄カラー全開のエネルギーな一日となりました。清水勇人さいたま市長、並びにご来場くださった皆様、ありがとうございました！



▲清水勇人さいたま市長と



◀昇龍祭太鼓のエイサーに大盛り上がり

「自由に住まう家」で新たな賃貸 木造戸建賃貸住宅 ABフリーエ (AB Free-ie) 誕生！

このたび弊社が満を持してご紹介、ご提案するのは、賃貸経営の新たなカタチ『ABフリーエ (AB Free-ie)』。木造一戸建て住宅の建設・賃貸経営をおすすめするものです。フリーエは、一戸建てならではの自由な空間(=Free)と、木造住宅(=家・ie)から生まれた造語。住まう方が「やすらぎの我が家で、自由と喜びの日々を」送れることを願って、命名しました。

入居者にとっては、プライバシーが守られ、広々とした空間が楽しめるのが一戸建てのメリットとなり、一方で賃貸経営をさ

れる方にとっては、小規模の土地・少額の投資で事業を行えることがメリットとなります。双方に利点を生み出せると考えています。一戸建て需要が高まっている今、ご検討されてみてはいかがでしょうか。

土地活用をお考えの方や相続税対策に悩まれている方、または私設年金を希望される方など、広く皆様にご活用していただけるものと願っています。

詳しくは不動産営業部までお気軽にご相談ください。お待ちしております。

▶▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)

社長の 男気 コラム

「企業は人なり」 私たちは「ここ(魂)」で仕事をしています！ 「人柄の勝利」だった表彰幾多

皆様は日頃、仕事のクオリティを高める決め手、あるいはカギになるものは何だとお考えですか？ 私は「人柄」や「人間性」が、実は大きな役割を担っていると感じています。意外に思われますか？ もちろん、それが建設業の話なら、発注者が望む完成形を望んだ通りに作り上げるためには、技術は絶対的に必要です。また知識や経験、ノウハウだって必須でしょう。しかし、それと同じくらい、作り手が優れた人柄や心持ちを備えていることも重要だと思っています。

1～3面でお伝えした表彰受賞はどれも、それが如実に表れたものでした。たとえば日建設計様から、「タムロンキッズ保育園」の施工で高橋グループリーダーがいただいた表彰。最初に先方から提示されたのは、本当に『ドラえもん』のガリパトネルの絵だった

そうです。普通なら「これを？ 建物に？」と仰天する話ですよ(笑)。でも、彼はそこに託されたいろいろな夢を汲み取ろうと、またそれを形にしようと最大限の努力をしました。技術的におのずと非常に高度なものが求められたのですが、丁寧に緻密な施工で応えた。だからこそその受賞でした。

調節池を作って自治会の方々から感謝状をいただいた鍋木君、主任の後藤君もそうです。土木工事をして、いかにそれが地域の安全や幸せのためになるものだったからといって、実際に感謝状を贈ってくださるなんて…そんな話は聞いた試しがありません。普通は心の中で感謝して終わり、ですよ。けれども実際は、手作りの慰労会でもなしてくださったり、式典やその慰労会の写真をたくさんコラージュして、感謝状のパネルに仕立てて届けてくだ

さったり。「住民の皆さんがピンチだ、何か手伝えなにか」、その想いに突き動かされて、彼らがいかに献身的に救援活動を行ったか、それが目に見えるようです。社員の頑張りも、住民の皆さんの温かいご厚意も、どちらもがあったからこそ誕生した「いい話」です。

今回の受賞を社内に報告する全体朝礼のときに、田中課長がこんなスピーチをしました。「実直に相手の立場に立つことが、仕事では一番大事。そうして初めて、相手の求めるものを形にすることができる」。その通りだと思います。自分本位のもの考え方では、どうしたって相手の意向や想いを汲むのに限界がある。人を思いやり、求めることを想像できなければ、真に相手に



▲万歳だよ、わっしょいだよ、社員諸君！ これからもハートでいい仕事してくれることを期待！

寄り添うことにはならないのではないのでしょうか。そして、相手の想定を超えたものを提供して初めて、感動を創造できる。私はそう信じています。

表彰は、それを実行できた彼らの人柄や人間性の勝利！ ハートの勝利だと思うのです！ 私たちの理念である「企業は人なり」、これからも突き詰めて参ります。